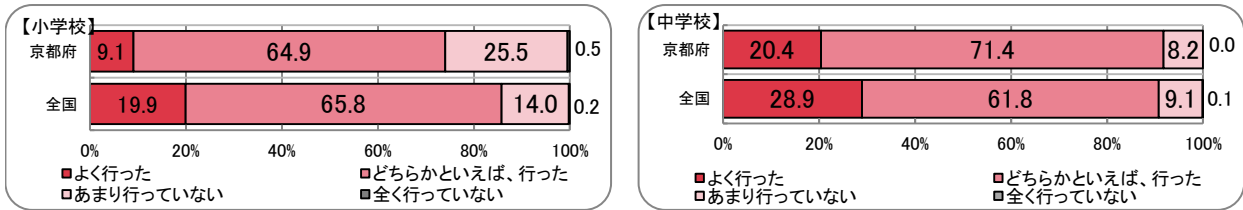


(3) 理科の指導法

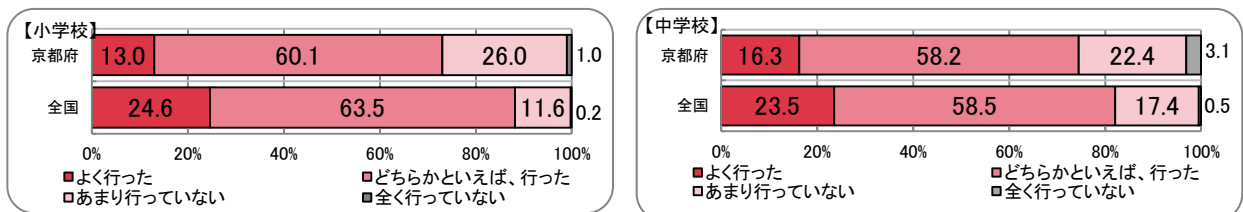
京都府のデータは京都市を除いています

Q1～5は便宜上の番号であり、実際の質問番号はP60参照

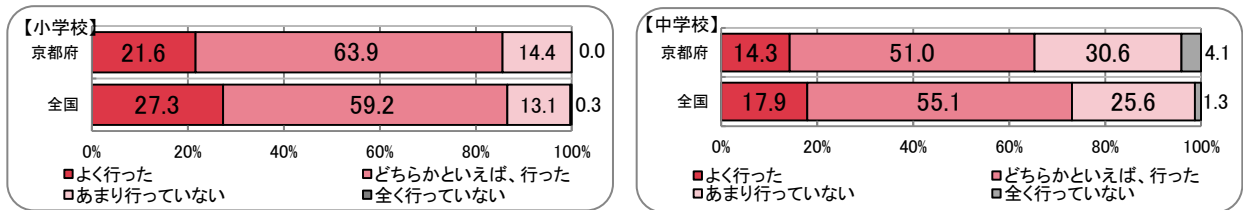
Q1: 調査対象学年の児童(生徒)に対する理科の指導として、前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか。



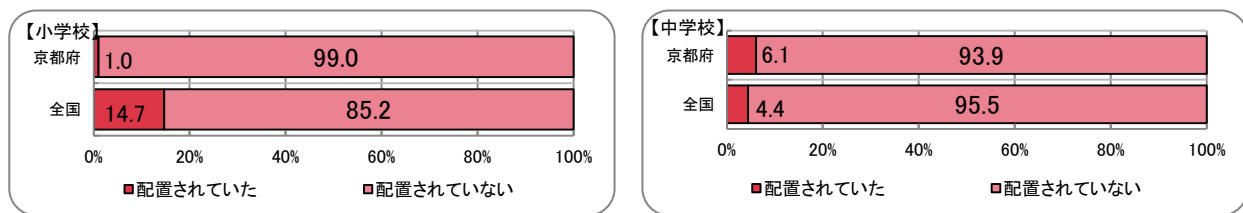
Q2: 調査対象学年の児童(生徒)に対する理科の指導として、前年度までに、児童(生徒)が科学的な体験や自然体験をする授業を行いましたか。



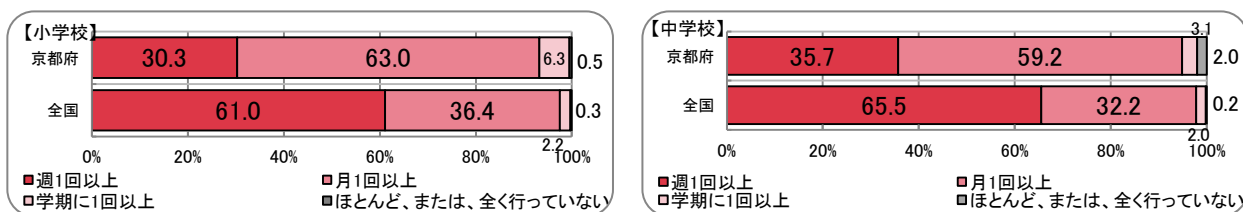
Q3: 調査対象学年の児童(生徒)に対する理科の指導に関して、前年度までに、自ら考えた仮説をもとに観察、実験の計画を立てさせる指導を行いましたか。



Q4: 調査対象学年の児童(生徒)に対する理科の授業やその準備において、前年度に、観察実験補助員が配置されていましたか。



Q5: 調査対象学年の児童(生徒)に対する理科の授業において、前年度に、理科室で児童(生徒)が観察や実験をする授業を1クラス当たりどの程度行いましたか。



分析 理科の指導法に関する質問での肯定的回答の割合は全国平均よりも低い傾向があるが、Q4「観察実験補助員」の協力を得ながら、Q5「理科室で観察や実験を行う回数」を増やしていくことを含めた授業改善が必要である。

